

後藤 征昭議員



Q 文化財の被害状況と今後の対応は
A 甚大な被害があり 国に支援を求める

後藤議員

この度の大地震は、多くの犠牲者をだし住宅をはじめ道路、鉄道、農地、山林など甚大な被害をもたらした。その中で、神社やお寺など文化財の被害状況の報告と今後の対応は、**教育委員会事務局長** 村には、別表のとおり文化財がある。

名称	種類	指定区分	所在地	被害状況
米塚及び草千里ヶ浜	名勝・天然記念物	国	中松・長野・阿蘇市	なし
柏木谷(かしのきだに)遺跡	史跡	県	久石	なし
六の小石古墳群	史跡	村	久石	なし
西野宮神社の梵鐘	重要文化財	国	河陽(東下田)	あり
京都大学火山研究センター	有形文化財	県	河陽(黒川)	なし
床瀬川橋(石橋)	有形文化財	村	河陽(黒川)	あり
濁川橋(石橋)	有形文化財	村	河陽(沢津野)	あり
無量寺阿弥陀如来坐像	有形文化財	村	両併	なし
祇園岩戸神楽	無形民俗文化財	村	一閑	
長野岩戸神楽	無形民俗文化財	国・県	長野	

京都大学火山研究所は、建物の内外が大きく損傷しており、文化庁が調査に入る。村指定の床瀬川橋は、橋台部分は残っているが、石積みが崩落しており通行不可能の状況で、被害が甚大である。

黒川地区の歴史深い景観形成と貴重な文化財であるため復旧について専門家の意見を聞いています。濁川橋は、欄干にひびがあり道路の地割れにより通行ができない状況である。橋の荷重に耐えられないのか、接合部分なども含めて調査が必要。

Q 文化財再建の助成金制度創設は
A 復興事業と合わせて検討する

有形文化財の修復は、国、県の補助メニューにより可能になるが、指定以外の文化財については、国庫補助制度の創設を国に対して強く要望する。

村内の神社、お堂等歴史的建造物の被害状況調査を行ったところ107カ所に上る被災を確認している。地域のシンボリックな建造物や神社、仏閣も含まれている。地域からは、行政支援により修復できないかと要望も上がっているが、政教分離の観点から直接の公的資金は厳しいと考えられている。今後は、県との連携強化を図り復旧・復興の財源の確保に向けて努力する。



西野宮神社鳥居



地震で被害を受けた床瀬川橋



倒壊した塩井社神社

後藤議員

村長

山古志村でできなかった仏閣の再建をぜひ実現できるように執行部・職員・議会一丸となって取り組むべきである。

復興には、人と人との「地域のきずな」が重要であるが、地域再生に村民の「精神のよりどころ」である被災した神社、仏閣、集会所、消防団詰所等の再建・修復は補助金の対象外である。再建に向けての資金助成制度についての考えは、**教育委員会事務局長** 村の復興では新潟県が財団方式により神社を再建した例がある。

東日本大震災では神社仏閣への支援ができなかったが、中越地震では新潟県が財団方式により神社を再建した例がある。

村の復興は、山古志村の復興に重ねていくことでもつと素晴らしき知恵があるかと考える。

神社の復旧について補助金・助成金を出すということについては、検討段階であるが必ずお手伝いをしたいと考えている。県の復興基金の使い方について村の要望を聞き入れていただきながら、お願いをしていく。それぞれの地域の方で復旧できる状況ではないので、しっかりと考えていくことは約束をする。